



「サテライトとしての蓼科ガーデンの役割」

小澤 文子（恵泉女学園 蓼科ガーデン長）

ガーデンに足を踏み入れて「恵泉らしいと感じた」と感想を言う学生に「恵泉らしいってどんな？」と、もう一步ふみこんで尋ねるようにしています。

「う・・・ん？落ち着く？」「植物たちが生き活きとして自由な感じ？」

ちょっと抽象的な表現ですが、学生が一生懸命探しながら発することばから、ガーデンを通して何か感じ取るものがあったことをうかがい知ることができます。

「自然と人間生活の融和」をテーマに、恵泉園芸センターの研修施設として約1haの敷地にガーデンが造られたのが34年前の1985年。自然から学ぶという姿勢で、園芸と結びついた

「自然とのかかわり」を発信し、社会貢献を視野に利用されてきました。その後、より多くの生徒・学生、地域社会へ開かれたガーデンにするため、2010年に大学の管轄に、2014年には「花と平和のミュージアム」のサテライトに位置付けられました。それによって年間見学者数は200名から一気に2000名まで伸び、創設者河井道先生が掲げた恵泉スピリット、そして恵泉の園芸教育の一端を学内外に発信する機会が増えていきます。

ガーデンは河井先生に直接教えを受けた教え子たちの働きのうちに生まれました。時代は、恵泉教育に流れるそのスピリットを、伝えられた話や書かれたものから受け取り、未熟ながらも謙虚に解釈していく世代へと変わりつつあります。試行錯誤しながらもそれをガーデンに反映し、目で見、感じられる形で次の世代に伝えていく事の意義を実感しています。



村井吉敬記念講座の開設と2019年度テーマについて

上村 英明（花と平和のミュージアム実務委員会委員）

上智大学や早稲田大学に奉職した村井吉敬先生は、経済史研究者として多くの優れた業績を残されましたが、2013年まだまだ活躍を期待されながら、69歳で他界されました。また村井先生は、恵泉女学園や恵泉女学園大学とも深いつながりを持った方で、その膨大な蔵書や研究資料は、現在恵泉女学園大学に置かれた「花と平和のミュージアム」に寄贈され、利用に向けて整理作業が続けられています。

村井先生は同時に、草の根の視点、そこに生活する人々の視点に立ち、彼ら彼女らの生活と権利を守る活動に積極的な方でもありました。その点、恵泉女学園大学では、現在加速するグローバル化と保守化の時代、その中で生活や権利を脅かされている人々の視点から社会問題を学ぶ先生の名前を冠した公開講座「村井吉敬記念講座」を、資料の整理作業に並行して開催したいと考えました。村井先生の思いから、第1回目のテーマは日本の「近代」とアジア。日本が「近代化」を始めた「明治」以来の150年間を対象に、改めて学びを深めて行きたいと思えます。

「記念日本間」－恵泉女学園の始まり－

原嶋 夕佳（恵泉高校教員）

世田谷キャンパスの正門を入り、校舎を通り抜けた先に日本間があります。2004年にキャンパスの改修工事をする前は校庭に面した場所にありましたが、一旦解体し、部材を調整後、現在の場所に移築しました。中高の生徒は入学時に「日本間」について、学園が1929年4月に神楽町で産声を上げた建物（森久保寿夫人の屋敷内にあった）で、初期の頃はここで授業が行われていたことを教わります（「わたしのランタン」には授業風景の写真があります）。木造平屋の中は、奥が十畳、手前に八畳の和室二部屋と四畳ほどの縁側で、とてもこじんまりした空間です。この小さな日本間で、河井先生は「わたしの学校」を喜びに満ちて開校なさいました。1930年に恵泉は神楽町から現キャンパスに移転し、1935年に日本間が移設されました。開校から90年後の現在、旧正門から移植した木々や整備しなおした庭石に囲まれた日本間は、課外茶道の稽古や、かるたクラブの活動場所として、生徒が日々活用しています。雨戸の開け閉めは中学1年生の仕事で、高校生からコツを伝授されるそうです。



角田葉子先生ボタニカルアート作品展

2019年度の恵泉デーでは、角田葉子さんのボタニカルアート作品展が開催され、多くのご来場者の皆さんや恵泉の関係者の皆さんにご覧いただきました。まるで実物を見ているかのような鮮やかで繊細な作品の中には、椿や百合、桔梗など中学校のクラスの名前にも使用されている花や実もあり、恵泉女学園の園芸文化についても触れて頂く良い機会となりました。ボタニカルアート作品の感想は大学のホームページにて掲載されております。角田葉子さんの作品は、恵泉女学園大学園芸文化研究所紀要『園芸文化』の表紙を飾っています。今年度の恵泉デーが初めての試みでしたが、恵泉女学園の園芸文化に触れる場を今後も数多く作っていくと共に恵泉が目指す花と平和のある世界を発信し続けていければと思っております。

金井風璃（恵泉高校教員）



活動記録

2018年

10月 バラ講演会（講師 野村和子）

2019年

3月14日 多摩キャンパスオープンガーデン（来場者百名を超える）

4月（関連） 広島県立平和祈念資料館展示リニューアルに伴い、福島菊次郎氏の作品が展示される。

5月27日 スプリングフォーラム2019 福島菊次郎写真展「写真家が選ぶわたしの一枚」

6月 多摩ニュータウン学会誌21号に『恵泉女学園「花と平和のミュージアム」アート保存事業』上村英明（招待活動報告）掲載

7月24日 蓼科ガーデン「オープンガーデン」

7月17日 武田作品見学4名

8月14日 蓼科ガーデン「オープンガーデン」

8月（桑名市）福島菊次郎写真展

9月 福島菊次郎写真旧蔵書追加寄贈（26冊）

9/21～23 「原爆パネルと戦死者たちからのメッセージ」コラボ展示 主催：小金井市原水禁教会、小金井市教育委員会後援

11月4日 恵泉デー 角田葉子ボタニカルアート作品展（於 中学・高等学校校舎D棟2階フロア）

11月 公開講座 村井吉敬記念講座開設（全3回）

11/1～12/15 沖繩県立平和祈念資料館令和2年特別展示 武田美通鉄の造形『戦死者たちからのメッセージ』開催